

第8課 被造物への配慮 2月25日

安河内アキラ

今週の聖句 ペトロ第二 3:10～14、創世記 1:26～28、2:15、ネヘミヤ記 13:16～19、ヘブライ 1:3、詩編 100 編

今週の研究 神のすべての賜物の管理者として、私たちはこの地球を管理する義務を負っているのではないのでしょうか。

私たちは神の創造なされたものをどう扱えばいいのかということについて、ある種の意見を持っておくべきではないのでしょうか。

今週はこれらの問題について、聖書が何と教えているかを学びます。

月曜日:この世界とその中の生命、資源が神からの賜物であると信じるクリスチャンとして、私たちは率先してその管理に努めるべきです。もしこの地球が偶然にしてできたもの、冷酷で無情な力の産物にすぎないと信じるのなら、自分の目的のためにそれを搾取することも許されるかもしれません。

しかし、この世界が神によって創造され、支えられていると理解するなら、世界の責任ある管理者となることは当然のことです(創 1:1、26、9:7、詩編 24:1、100 編、ヤコ 5:1、2、4、5、ヘブ 1:3)。

水曜日:確かに、安息日は神がこの世界を創造された事実を記憶することですが(そのことがまた私たちの関心を世界との接し方に向けさせてくれる)、同時にそれはまた利益の追求を休むことでもあります。

安息日を守ることによって、また毎週、例外なく、人生の7分の1を意識的に取り分け、富とお金、財産の追求をやめることによって、人生が金儲けだけでないことのみならず、度を越すと地球を傷つけるような行為を控えていることを週ごとに思い起こすのです。

金曜日:いまは罪のために神の完全なみわがが傷つけられているが、それでも神の筆跡は残っている。いまでもすべての被造物は、神の完全さについて栄光を告げて

いる。人間の利己心よりほかには、自分だけのために生きているものは何もない。空中を飛ぶ鳥も、地上を動きまわる動物も、すべて何かほかの生命のために奉仕している。どんな森の木の葉もどんな小さな草の葉も、それぞれ奉仕している。どの木もどの植木もどの葉も、人間や動物が生存するのになくてはならない生命の要素を出している。

そしてこんどは人間と動物が、木や植木や葉の生命に奉仕するのである。花はかおりを放ち、その美しさをあらわして世の人々の祝福となる。太陽は光を放つてもろもろの世界をよろこばせる。海はすべての泉のみなもとであるとともに、またすべての土地の水の流れを受け入れるが、それは与えるために受けるのである。海面から立ちのぼる霧は、地から芽が出るように、土地をうるおすために雨となってくる」(『希望への光』675 ページ、『各時代の希望』上巻 2、3 ページ)。

このごろ都市部でも地方でも川の流れを見ると、昔はどぶみたいでしたがきれいになりましたね。また都市部の空気も昔よりは改善されました。

河川は下水の整備が、また空気は自動車や工場の排ガス対策が進んだことによるものでしょう。もちろん、わたしたちが汚染物質を排出しなくなったために、自然が自らの力で回復したわけですが。

このような改善のために、わたしたちは何をしましょう。例えばエコカーなどを購入したかもしれませんが、現在享受している便利さを特に捨てたりはしていないでしょう。

自分たちに直接影響が無く、社会全体が改善することであれば、だれも文句は言いません。けれどもいざそれが自分に影響して来ると、とたんに反対の声が上がります。

例えば、被災地の瓦礫処理を広域でという考えには、多くの方が賛同するでしょう。けれどもいざ自分の街でそれをすると、放射能の影響がなどと反対運動が起こります。また沖縄の米軍基地負担軽減をと言えば、ぜひ何とかと思っても、それがわが街で引き受けましょうという自治体はみあたりません。

先日、あるテレビ番組で報じていましたが、現代社会は弱いところに犠牲を押し付けてなりたっているのです。

大人になるまで関東地方で過ごしたわたしは、このような思いはありませんでしたが、牧師になってからは北の国で17年を過ごしました。そこから大東京を見ると、この街を維持するために、多くの物が流れ込んでいることが良くわかります。にもかか

わらず、この街は、地方は遅れている、文化が育っていないと心のどこかで蔑んでいます。

さて、今週の学びですが、わたしたちの生きる姿勢について問うています。クリスチャンの生き方は、このようにあるべきだと具体的なことを考えるのではなく、それはあくまでも適用であり、その根源にある、いずれ消えてしまう物質に対して、どのように生きていくのかを問いかけているのです。

それはいかに生きるかではなく、「生かされている」ことを忘れずに謙虚に生きることではないでしょうか。

クリスチャンは、わたしたちの命、時間、能力などは神さまに与えられたもので、それをすべての人の幸せのために用いるように与えられたものと信じています。神さまが主人なのです。だから聖書は神さまを「主」と呼んでいます。けれども今日の人間は、わたしが「主」になっています。

自分が生かされていると認識していたら、もう少しやさしくなれるでしょう。謙虚にいれば争いも減ることでしょう。なぜなら、わたしたちは被造物なのです。

このことを、今のわたしにあてはめて、どのように生きたらよいのか、この一週間考えながら学んでみてください。